

公開シンポジウム

「人はなぜ暴力を振るうのか、 その対策とは」

日時:2017年10月21日(土) 13:00~18:00
(開場12:30)

場所:龍谷大学深草学舎 22号館101教室

●タイムスケジュール●

13:00 開会

13:15 基調講演「暴力の解剖学」

ペンシルベニア大学教授 エイドリアン・レイン氏

15:00 シンポジウム

「日欧比較——女性を対象とした暴力被害調査」

司会 浜井 浩一氏(龍谷大学法学部教授)

報告

「EUが実施した女性を対象とした

暴力被害調査の目的と成果」

サミ・ネヴァラ氏(欧州基本権機関・統計調査部門主任)

「日本調査の実施のプロセス」

浜井 浩一氏(龍谷大学法学部教授)

「日本調査からわかったこと」

津島 昌寛氏(龍谷大学社会学部教授)

指定討論 岩井 宜子氏(専修大学名誉教授)

18:00 閉会

●申し込み案内 先着300名(申込不要・参加費無料)・逐次通訳あり

主催:女性に対する暴力被害調査研究会

共催:日本犯罪社会学会、龍谷大学矯正・保護総合センター、
龍谷大学犯罪学研究センター

●本シンポジウムは、科学研究費補助金「女性に対する暴力の実態把握と科学的妥当性・信頼性の高い被害者調査の創出(課題番号:15H01922)」、龍谷大学社会科学研究所の助成を受けています。

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUGASAKI UNIVERSITY

【講演者紹介】

エイドリアン・レイン氏（ペンシルベニア大学教授）

エイドリアン・レイン氏は、暴力の生物学的基盤の解明をめざす新たな学問分野“神経犯罪学”を確立した第一人者です。主著「暴力の解剖学——神経犯罪学への招待」（紀伊國屋書店）では、脳、遺伝、栄養状態などの生物学的要因、および生物学的要因と生育環境など社会的要因との相互連関（バイオソーシャルな視点）から、いかに暴力的な性格が形成されるのかを明らかにしました。また、神経犯罪学の知見の実用化にともなう倫理的・法的課題を検討し、暴力のより少ない未来社会の実現への具体策を提言しています。

【シンポジウム「日欧比較——女性を対象とした暴力被害調査」の企画趣旨】

今回、日本で行った、女性を対象とした暴力被害調査「女性の日常生活の安全に関する調査」（以下「日本調査」と略）は、欧州基本権機関FRAが2012年にヨーロッパで実施した“Survey on women’s well-being and safety in Europe”（以下「EU調査」と略）を、調査責任者の協力を得て、実施したものです。

EU調査は、EUが初めて統一した形式で実施した、女性を対象とした暴力被害調査です。現パートナーや以前のパートナーからのDV暴力被害、ストーカー被害、セクハラ被害などの、さまざまな暴力の形態や頻度をふくむ詳細な調査内容であり、すべてインタビュー方式で行われました。また、センシティブなテーマを扱う調査でしたので、調査員向けの事前研修会を開いています。

日本調査は、近畿圏を対象に、2016年に実施しました。この調査の最大の特徴は、EU調査と同じ項目・内容、方法論をもちいて日本で行ったことにあり、日本における女性の被害実態をEU諸国との比較のなかで検討することが可能になった点です。

シンポジウムでは、日本の結果を公表するとともに、EU調査の責任者であるサミ・ネヴァラ氏を招いて、日本調査の意義を検討します。

ACCESS 交通アクセス

- 龍谷大学深草学舎 22号館101教室
京阪「深草」駅下車徒歩約3分
JR奈良線「稲荷」駅下車徒歩約8分
京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車徒歩約7分

お問い合わせ先

公開シンポジウム実行委員長 浜井 浩一（龍谷大学法学部教授）
TEL:075-645-2154/FAX:075-645-2240

